

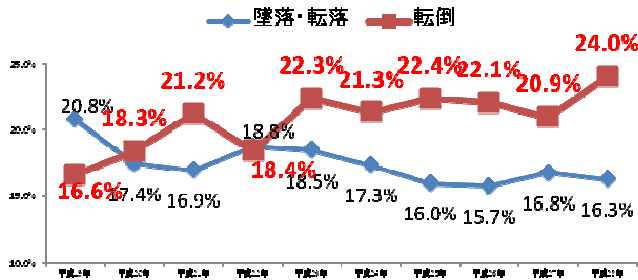
STOP! 転倒災害

職場での転倒災害を減らしましょう!!!



転倒災害は、最も多い災害でしかもその割合は年々増加、平成28年は24.0%（平成27年度20.9%）、急増中

第三次産業で、特に、小売業、社会福祉施設で多く発生。



業種別転倒災害発生割合(平成27年)

業種	転倒	割合
全産業	617	20.9%
製造業	124	16.1%
建設業	33	10.2%
運輸交通業	65	15.4%
第三次産業	368	29.0%
小売業	115	34.6%
社会福祉施設	74	32.3%
飲食店	22	20.8%

あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目	☑
1 通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2 床の水たまりや水、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3 安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4 転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5 作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6 ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7 段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
8 ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9 ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

転倒災害の典型的なパターン

例えば、こんなことはありませんか？

濡れた床面ですべって

食品製造機械の周りの床が水でぬれていたため、掃除用異を取りに行ったところ、濡れていた床面ですべって転倒し、頭部を強打した。

休業1カ月半 食品製造業

台車につまずいて

バックヤードで商品の検査中に、応援要請があり、店内のレジに向かう途中、台車に足を引っ掛けて転倒し、捻挫した。

休業1カ月半 小売業

階段を踏み外して

段ボール箱を抱えて階段を下りていた時に、足元が見えず階段を踏み外し転倒した。

休業2カ月 飲食店

50代以上で6割超。

転倒災害年齢別業種別発生割合(平成27年)

	20代	30代	40代	50代	60代	
全産業	2.0%	12.8%	16.7%	24.4%	21.9%	22.3%
転倒	0.8%	5.8%	12.0%	20.4%	28.4%	32.6%

社会福祉施設で長期化。

業種別転倒災害休業見込み(平成27年)

	1か月以上	3か月以上
全産業	64.4%	12.9%
製造業	57.4%	9.4%
建設業	60.6%	15.2%
運輸交通業	60.0%	8.9%
小売業	64.3%	13.0%
社会福祉施設	76.0%	21.3%
飲食店	54.5%	13.6%

転倒災害防止対策のポイント

▶ 転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。
整理整頓、ストレッチ体操等できるところから少しずつ取り組んでいきましょう。

4S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法 「あせらない 急ぐときほど 落ち着いて」	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> 歩行場所に物を放置しない 床面の汚れ（水、油、粉など）を取り除く 床面の凹凸、段差などの解消 	<ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕を持って行動 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行 足元が見えにくい状態で作業しない 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に適した靴の着用 職場の危険マップの作成による危険情報の共有 転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起 転ばないからだづくり（ストレッチ体操等身体機能の維持・向上）

8月以降も職場の熱中症予防対策を万全に！！



平成27年は広島で熱中症による死亡災害発生

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	計	
死傷災害	全国	269	378	280	150	656	422	440	530	423	464	4012
	広島	11	9	6	4	19	12	9	13	8	3	94
死亡災害	全国	17	18	17	8	47	18	21	30	12	29	217
	広島		1	1		1					1	4

警備業:50代:平成27年8月発生
被災者は土木工事現場において、車両等の交通誘導業務を行っていたが、熱中症により死亡。

建設業、製造業で多発

	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	それ以外	計	
死傷災害	全国	690	422	285	157	169	556	2279
	広島	14	14	6	2	3	6	45
死亡災害	全国	44	16	4	14	5	27	110
	広島				1		1	

7月、8月で多発

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月以降	計	
死傷災害	全国	47	144	908	1081	86	13	2279
	広島	1	3	20	20	1	0	45
死亡災害	全国	0	8	46	51	4	1	110
	広島		1		1			2

14時台～16時台で急増

	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台以降	計	
死傷災害	全国	180	183	266	161	173	287	336	289	188	216	2279
	広島	3	3	3	4	3	9	9	5	5	1	45
死亡災害	全国	2	8	15	6	7	18	11	19	14	10	110
	広島					1						1

皆さまへ、ご注意とお願い

熱中症予防のために

こまめに水分を補給してください

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分、経口補水液などを補給しましょう。

暑さを避けてください

室内では・・・
 ● 扇風機やエアコンで涼風を扇ぐ
 ● 高圧洗浄機、掃除機、打草機を利用
 ● 涼風をこまめに確認

外出時には・・・
 ● 日傘や帽子の着用
 ● 日陰の利用、こまめな休憩
 ● 天気の良い日は、日中の外出をできるだけ控える

からだの暑熱を避けるために

● 適度な運動、朝晩・運動場のある公園を散歩する
 ● 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

気温が急に上昇した日、家の片付けなどの作業を行うとき、車やテントの中などでは特に注意し、以下の症状に気づいてください。

熱中症の症状 ▶ めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉がこわばり、気分が悪い、頭痛、吐き気、嘔吐(おうと)、嘔吐、意識障害、いつか様子が変わる
 ※重症になると、意識が昏かしい、意識消失、けいれん、からだがかたい

熱中症が疑われる人を発見したら

● 涼しい場所へ エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所へ、
 ● からだを冷やす 衣服をゆるめ、からだを冷やす(扇風機、扇付、扇付扇風機)
 ● 水分補給 水分・塩分、経口補水液などを補給する

自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を！

「熱中症」は、暑さ多湿な環境に長時間いることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。暑外だけでなく、室内でも発生する可能性があります。救急搬送されたり、場合によっては死亡することもあります。

詳しくは、厚生労働省ホームページ「熱中症予防情報」をご覧ください。

5 救急処置

(1) 緊急連絡網の作成・周知

● あらかじめ、病院・診療所などの所在地や連絡先を把握するとともに、緊急連絡網を作成し、関係者に周知してください。

(2) 救急搬送

● 具体的な救急処置については、下記「熱中症の救急処置(現場での応急処置)」を参考にしてください。

図・熱中症の救急処置(現場での応急処置)

熱中症を疑う症状はありますか？

熱中症を疑う症状については、「1 熱中症の症状と分類」の表1を参照してください。

意識はありますか？

意識がはっきりしている → 涼しい場所へ搬送してください
 意識がはっきりしない → 救急車を要請してください

水分を自力で摂取できますか？

自力で摂取できる → 水分・塩分を摂取させてください
 自力で摂取できない → 医療機関へ搬送してください

回復しましたか？

回復しない → 医療機関へ搬送してください

※ 上記以外にも、体調が悪化するなどの場合には、必要に応じて、救急車を要請するなどにより、医療機関へ搬送することが必要です。



広島労働局(広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎2号館)